

森林・林業

森林・里山と林業の林業の現状（現地視察）

日時：平成27年8月8日（土） 10:00～15:00

講師：近藤 稔（名古屋大学大学院生命農学研究科助教）

概況



①水源林の管理について

豊田森林組合 林 富造 代表理事専務

現在、間伐されない（手入れされない）森林により、森林全体の水源涵養機能が低下し、土砂流出の引き金になっている。2000年東海豪雨による矢作ダムを埋めた流木・土砂。2011年台風12号による那智勝浦町の被害。2014年10月広島豪雨災害など。

なぜ間伐しないのか？市場での木材の価格が生産コストに比べて低く、公的補助金があっても殆どが採算割れの状況であり放置される森林が増え続けている。

安全で安心の生活は誰が担保するのか？日本の木を使うことが、日本の森を守り、環境を守ることに繋がることを考えてほしい。

②高性能林業機械施業について

講師 名古屋大学大学院生命農学研究科助教授 近藤 稔先生

林業は他業種と比較しても労働災害発生率が高く危険な業種で、生産性の向上や労働安全のためにも高性能林業機械の導入が必要ある。

生産性の高い北欧と比較すると日本は急峻な地形など非常に作業環境が厳しい

め、高性能機械の効率が上がらないのが現実です。

日本の林業経営は、国や県の補助金なしでは成り立たない状況である。高性能林業機械の導入についても、補助金がなければ厳しいのが実態である。

③ 旭木の駅プロジェクトについて

旭木の駅プロジェクト実行委員会 高山 治朗 委員長

全国で、除伐・間伐が急がれる森が増加しており、森林の荒廃が進んでいる背景から、木の駅プロジェクトが考えられた。

木の駅プロジェクトとは、森林整備と地域通貨による地域活性化をきっかけとした自治と地域コミュニティの再生の仕組みである。

旭木の駅プロジェクトは、2011年2月に社会実験として第1回を開始し、2015年3月で第6回を終了しました。回数を重ねる毎に、ひとつひとつ課題を克服しながら今に至っている。

ちなみに、1トンあたり6,000円の地域通貨券を山主に払うが、実際集められた間伐材の価格は、1トンあたり3,000円であるため、逆ザヤが生じ行政の補助金が無ければ成り立たないのが現状である。

山がきれいになる・仲間が増え話題ができる喜び・地域経済が潤うなど地域コミュニティ活性化の大きな力となっている。行政主導でなく自治主導で意思決定し、間伐材の販路の多様化により、自立循環に向けて着実に課題解決を進めていきたいと考えている。

④ 高性能林業機械導入間伐地 現地視察（豊田市押井町）